

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4092000100		
法人名	株式会社 伸宅		
事業所名	グループホーム 生き生き参番館		
所在地	福岡県柳川市三橋町下百町217番地5 (電話) 0944-72-7333		
自己評価作成日	平成 30 年 12 月 1 日	評価結果確定日	平成 31 年 3 月 28 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

住み慣れた柳川で利用者様らしい生活を送って頂ける様に理念を掲げて、職員一同、極め細やかで質の高いケアを目指している。ご家族とは折に触れて会話や連絡を行い、状況や状態を伝えている。訪問看護との医療連携では、夜間の急変時の対応や重度化しても安心して生活して頂ける様に支援している。また、地域の一員として毎朝、施設周辺の歩道の掃除を行い、散歩してある方と挨拶を交わしているが、気付かない時も相手から声掛けを頂く事もある。地元高校の福祉課の生徒さんの実習は継続して受け入れている。地元の祭りのおにぎえでは施設内に入って頂き、全国から櫛を繋ぐリレーのRUN 伴では応援したりと、地域や社会との繋がりを大切にしている。朝礼では、ケアの質を高める為に、対応の仕方、言葉遣い、注意する事などを色々な角度から伝えている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaijokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	平成 31 年 1 月 23 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は私鉄主要駅から近く、利便性が良い場所に位置している。もともと歴史や風情のある地区であるが、事業所周辺は区画整理により新しさが感じられ、建物はその地域の雰囲気象徴するようなペンション風の二階建てである。管理者をはじめ職員は、利用者やその家族も共に安心して、住み慣れた地域での暮らしができる支援を目指しており、その為のケアの向上の各種研修も充実している。また職員間のコミュニケーションも良好で、質の担保に繋がっている。事業所は設立後7年間、着実に地域に根差しており、今後の地域における役割にも益々期待できる。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は目につきやすい所に掲示し、職員全員が共有し実践に繋げている。相談に見えた方や入居を希望される方にも理念について説明を行っている。	事業所独自の理念はパンフレットにも提示されており、管理者は職員会議をはじめ折に触れて職員に伝えている。その結果、職員の意識にも定着し、理念の実現に向けて日々取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として町内会に加入し、月末の日曜日には公民館・お宮掃除に職員が交代で参加して、地域の人と交流を行っている。また散歩に出掛ける時には、地域の方と挨拶を交わしている。また地元高校の福祉科の実習生の研修を継続して受け入れている。地元の祭りのおにぎえでは内に入って頂いたり、全国からの襷を繋ぐリレーのRUN 件では外に出て応援したり、地域の一員として日常的の交流を行っている。	日々、事業所周辺の掃除を行い、また散歩時には挨拶や声掛けを行い、地域の方と顔見知りになっている。地域の伝統的な祭りにも参加し、また事業所主催の敬老会にも地域に呼び掛け、地域交流に努めている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩やドライブに出掛けた先で、近隣の方々と一緒にいる事もあり、挨拶を交わしたり、介護している所を見られて興味を示されて話し掛けられる事もあり、その場に応援が必要な方があれば、声掛けを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、利用状況、行事報告、内部研修、外部研修、その他、必要事項を報告し委員の方と質疑応答を行っている。提案などについて、サービスの向上に繋げている。	2ヶ月毎の会議には、家族や行政、地域住民の参加がある。事業所からは利用者の様子や事業報告等があり、出席者からは質問や意見が述べられている。栄養補助食品やスピーチロックの話題、災害避難場所の検討もされ、会議で出された意見や提案は運営に反映させている	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所高齢者福祉係、包括支援センターには運営推進会議の場で交流を図っている。欠席の場合には議事録を持参して、近況報告を行っている。また、市役所とはキャラバンメイトでも、交流の機会を持っている。	日ごろから市や地域包括支援センターと電話での連絡、相談することが多く、運営面でも連携している。行政からの依頼は受け入れるように努めており、管理者以外に職員もキャラバンメイトに参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で身体拘束の勉強会や、身体拘束適正化検討委員会での会議内容を伝えて理解を深めている。玄関は施錠せず、玄関にはチャイムが鳴るセンサーを設置し、センサーが鳴れば直ぐに玄関へ確認しに行っている。見守り担当は時間帯で交代し、意識付けを明確にする為に黄色の紐を肩から掛けている。	日中は玄関の施錠はなく、職員はチャイムを聞き分けている。利用者の外出傾向も把握しているが、更に近所へも見守りの協力を依頼している。職員は身体拘束をしない介護研修を通して理解しており、その他、身体的拘束適正化検討委員会による定期的な研修も行き、事業所全体で身体拘束をしないケアへの積極的な姿勢が伺える。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	職員会議の場で高齢者虐待について研修を行い、身体虐待は勿論の事、言葉の虐待においても職員一人ひとりが、しっかりとした自覚を持ち、虐待の言葉があるのを忘れる様な雰囲気になっている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議の場で権利擁護の研修を行い、再確認したり新しい知識を増やしている。玄関には成年後見人制度の冊子を置いて情報提供をしている。利用者やご家族に、当方から説明する事がないが、現在、施設では2名の方に後見人が付かれ、1名の方は身寄りがなく、もう1名はご家族が遠方に居られる状況なので、案件によりそれぞれと連絡を取り合うなど実践で行っている。	職員は日常生活自立支援事業および成年後見制度等について内部研修を受け、必要時、利用者に活用できるように取り組んでいる。また利用者家族には契約時や必要に応じて制度の説明を行っている。問い合わせに対応できるようパンフレットも準備されている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書については、わかり易い説明を心掛けている。料金改定時は別途、書式により改訂前と改訂後が分かり易く記述したものを作成し、利用者、ご家族に説明を行い、了承を得てから署名、捺印を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来館された時には、状況や状態などについて説明を行い、利用者やご家族から意見や要望が聞かれる事はあまりないが、意見や要望が出された時には、直ぐに検討を行い対応している。外部者には運営推進会議を通じて各委員に説明し、意見などを伺っている。	職員は利用者や家族から折に触れ、意見や要望を聞いている。利用者からはおやつや外出先に関する要望が主である。家族からは可能な限りの経口摂取の要望や、オムツ外しの取り組みに関する質問等がある。それらの意見や要望に、早急に対応し、極力運営に反映させるよう努めている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日、朝の申し送り時や職員会議時には、意見を聞く機会を設けている。日常でも意見を聞く事があり、直ぐに実行が必要な事案については、その場で職員に伝えたり、不在者には連絡帳で伝えている。	管理者は職員が職員会議や現場で気軽に自分の意見やアイデアが出せるような環境を提供している。また、出された職員の意見は検討し、出来る限り運営に反映することとしている。主任は一般職員と一緒に介護を行い職員の理解に努め、新入職員には入職後、早期に話を聞く等して、職員の定着にも努めている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との話し易い関係作りの為に、思いを聞く様にして精神的安定を図っている。また、年に2回自己評価を行い、目標を持つ事でケアの向上に繋がるようにしている。希望休や有給を利用し、働きやすい職場の環境作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用時、性別・年齢・宗教など個人的な事は重視せず、既婚者や出産育児中の職員など誰でも安心して働けるように職場の環境や条件の整備に努めている。また社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるように配慮している。	職員採用は法人本部が行っており、採用基準に性別や年齢はなく本人の意欲と希望を勘案して採用している。また産休後も本人の希望の労働形態が可能となるように、配慮がなされている。更に資格取得に関しても協力的で、資質向上のための研修体制もある。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権尊重は介護における基本と捉えている。毎月実施している、全体会議の中で人権尊重に対する研修会を開いたり、日々の申し送り中でも職員全員が自らの事として捉え、考える機会を設けている。	各職員は経験年数に応じて、人権及び虐待・身体拘束防止の法人開催の研修を受けている。受講後、研修報告書を作成、職員会議で伝達研修を行っており、全職員が人権の尊重への意識を高めている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数や技術に応じて外部研修を選定し参加している。研修内容は出張復命書により、目的・用件、経過・結果、意見・所感について記述し、内容については精査し、指導を行う事もある。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修などで同地区の者が同じテーブルで討議を行う機会もあり、終了後もそれぞれ交流を続けている。キャラバンメイト連絡会議の場や講座の場でも他事業所の方と交流があり、ネットワークづくりが出来て、サービスの質の向上に繋げている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人様とお会いし生活状況を探ね、不安に思っている事や気持ちを傾聴し、ケアの方法を職員全員で共有し、安心して利用が始められるように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が安心して本人様を預けていただける様に、ご家族の要望や不安等をお尋ねし、また入居後も面会時や電話連絡等で日頃の生活状況を伝え、より良い信頼関係作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の状態や生活状況、ご家族が困っている事等をしっかり聞き、他のサービスの選択肢も視野に入れた上で、今の状況で最適な支援をアドバイスしながら、ご本人やご家族の希望に添うように支援をしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に一緒に生活をしているという意識を持ち、日々の生活の中で楽しみや喜びを共有出来る様に支援をしている。洗濯物たたみを一緒にしたり、食事を同じテーブルでしたりして、身近に感じて頂く様に支援をしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に見えた際には、状態や状況をお伝えし、必要事項についてはご家族に提案し、意見を伺って方向性を決めている。大きな行事を行う時には、ご家族へ案内し出来るだけ参加して頂き、一緒に同じ時間を過ごして楽しんで頂ける様に努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚、知人、近所の方が面会に見えた際には、ご本人の居室に案内してゆっくりと過ごして頂ける様にしている。お帰りの際には、また来て頂ける様に声掛けを行っている。ご主人が他の介護施設に居られる方については、都合が合う時には一緒に行き面会が出来る様に支援を行っている。	職員は利用者の知人や親族の訪問を快く受け入れ、また行きつけのドラッグストアでの買い物に同行する等、馴染みの人や場所と繋がりを維持できるよう努めている。利用者が希望すれば年賀状、手紙のやりとりや電話の取次ぎ等の支援も行っている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の相性、性格、身体状況、ご本人の希望などを鑑みて食事席や、ソファ席を決めて、お互いが会話などをして楽しく、過ごされる様に支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退居されても、お見舞いに行き状態を確認したり、法人の関連施設のことを説明したり、サービス終了後も相談に応じて関係が継続していく事を説明し、安心して頂ける様に努めている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者との信頼関係を築いて、何でも話せる環境を作り出し、思いや意向を把握して一人ひとりの思いや意向を汲み取れる様に心掛けている。意思疎通が図り難い方については、ご家族からも情報を頂いたり、表情など細かな事でも観察し検討している。	職員は利用者と接する機会を十分に設けており、日々の会話から、思いや意向を把握している。意思疎通が困難な利用者には、目の輝きや表情を見たり、家族から昔の話や好きだったことを聴き、情報を得ようとしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、ご本人やご家族から生活歴や今までの暮らし方、生活環境、趣味、サービス利用の有無などを確認して、職員全員で情報を共有している。入所後にご家族との会話の中で、今まで知り得なかった情報を確認した時には、必要なものについては基本情報などに追記している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃、一緒に生活をして行く中で、食事、トイレ、レクリエーション、入浴などの場面で、一人ひとりの過ごし方、心身状態、有する力などの把握に努めて、状態に変化が見られた場合は、個人記録に記載し職員全員で情報を共有し対応を行っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は担当制にしており、利用者の状態や思いを把握し、3ヶ月に1回評価を行っている。ご本人、ご家族の意向を踏まえた上で、主治医や看護師の意見を取り入れて介護計画を作成し、毎月全体会議で利用者様一人ひとりの状態を話し合い、プランに反映し状態変化時は、その都度、見直しを行っている。	担当職員が3ヶ月に1回、利用者のモニタリングを行っている。モニタリングを基に、介護計画を6ヶ月毎に作成しており、利用者や家族の希望を確認し、担当職員と計画作成担当者が課題などについて話合っている。計画には看護師や主治医のコメントも反映させている。状態の変化があればその都度、計画を変更し家族に説明を行い、同意欄に書名捺印がある。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に1日の様子、健康状態、その他、気付いた点を記録し、情報を全スタッフで共有し介護計画の見直しに活かしている。また、申し送りノートを活用しスタッフ全員統一したケアを行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族の意向を汲み取り、個別の対応が出来る様に支援している。ご家族が遠方に居られる方で、入院された場合等では、洗濯物を取りに行き洗濯して病院に届けている。希望される医療機関への通院介助や送迎等にも柔軟に対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前から馴染みのある地域活動を把握し、利用者様が地域住民の一員として、地域で活躍出来る様に努めている。日頃の散歩では、ご近所の方と挨拶を交わして交流をしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診や往診については契約時に、ご本人やご家族から依頼を受けて、主治医に連絡を行い開始している。また、状況や状態に変化が生じ、途中で主治医が変更になる事もある。職員間や医療機関との連携を図りながら、適切な医療を受けられる様に支援している。	職員は入居時に利用者の利用開始前の受診経過を把握している。これまでのかかりつけ医の受診希望があれば、家族が受診に付き添い、受診時には施設での日々の状態を手紙にし、情報提供を行っている。家族で送迎が困難な場合には、職員が病院まで利用者を送迎し、家族と現地で待ち合わせる。受診後は家族からの報告を受け、職員間で情報共有している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日常の関わりの中で得た情報を、看護師や医療連携している訪問看護に伝えるなど、情報交換を密に行い個々の利用者が適切な受診や往診、看護を受けられる様に支援をしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院された際には、速やかに基本情報、アセスメント、薬情、薬、着換え、口腔ケア用品などを病院へ届けている。退院時には経過説明に参加して、施設での注意点などを確認している。入院中は出来るだけ面会に行き、状態や状況の確認を行い、地域連携室とも連携を図っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や終末期のあり方について説明を行い署名を頂き、そのような状況や状態になられた時に再度、ご家族と話し合いを行い方向性を決めている。看取りを希望された場合は、その時点で主治医と契約を交わし、医療連携している訪問看護にもその旨を伝えている。	重度化や終末期のあり方について明文化され、入居時に説明を行っている。利用者の状態に応じて主治医と看護師、職員と家族で今後の方針について話し合いを行っている。職員は家族の意向を大切に、主治医や看護師と連携しながら看取りに取り組んでいる。施設の2階に家族が利用できる宿泊室を設けている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月実施している全体会議の中で、急変や事故発生時の備えを題材として勉強会を行い、実際に起きた場合に適切な対応、行動が出来る様に実践力を身に付けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火・避難訓練を消防吏員の派遣を伴う総合訓練を1回、施設のみで行う部分訓練を1回の年2回訓練を行っている。新規に入社した職員には、早く仕方を習得させる為に、初期消火や通報の役割を持たせている。訓練後には消防署より、消防訓練実施結果について全体の評価、推奨事項や反省点を挙げて頂き、記録して今後活かしている。消火器に慣れていない職員には水消火器を用いて訓練を行っている。	年2回避難訓練を行い、その内1回は夜間を想定し、消防署の協力を得て訓練を行っている。区長を通して地域住民への参加協力を呼びかけ、運営推進会議後に訓練を実施し、区長や市役所、地域包括支援センター職員の参加がある。施設の2階に非常用備品（鍋、コンロ水やレトルトカレー等）が2日分程度備蓄されている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に排泄に関する事や、皮膚疾患などによる処置時に於いては、場所や声の大きさから十分にプライバシーに配慮を行い、安心して支援が受けられる様に対応している。	職員は利用者のトイレ誘導時には、利用者の耳元で小さな声で話しかけ、周囲にわからないように誘導し、プライバシーに配慮している。施設長は職員の入職時に個人情報について、説明を行っている。職員は個人情報に関する外部研修に参加している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との会話や支援をしている中で、希望や思いを確認し自己決定し易いように働きかけている。意思表示が出来難い方については、表情や声掛けした時の反応を見て希望や思いを確認したり、面会時にご家族から意見を伺う等して、再度、声掛けをして自己決定し易いように働きかけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様、一人ひとりのその日の体調や状態、気分などに合わせて、他の利用者様と楽しく会話されたり、個人でテレビ傾聴されたりして過ごされている。話しが出来難い方については、職員が傍に付いて会話などの支援を行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は月1回、出張サービス美容があり、自分から希望される方やご家族から依頼される方、自分から言われない方は、職員が確認してカットを依頼している。衣類は自分で好きな物を選ばれる方や、自分で出来難い方については、職員が付いて、一緒に選ぶ支援を行っている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様、一人ひとりの好き嫌いを把握し、嫌いな物でも食べやすく工夫したり、代替品を提供したりして、栄養が不足しない様になっている。各テーブルには職員が付いて、食事介助ををしたり、会話したりして楽しく食事を行っている。出来る方には食器洗いや拭きあげを依頼する事もある。	利用者は職員と一緒に皿洗い、エプロンや布巾を畳む手伝いを行っている。職員は利用者とは別の食事を同じテーブルで食べている。同法人の食事部門からの配食を、利用者の状態に応じ、職員が刻みやミキサーにして提供している。食事介助が必要な利用者にはゆっくりと声掛けが行われ、家庭的な雰囲気となっている。	
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスは同グループの栄養士がいる調理部門より配達されている。水分量の少ない方は本人が好まれる乳酸飲料や補水液を提供したり、朝や、おやつ時に牛乳やコーヒー牛乳を提供して水分量の確保に努めている。食事量は体重の変化やアルブミン値を確認して、調整を行っている。また、個々に状態に応じて食べ易い大きさを提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所で歯磨きを行う、自分で出来る方はして頂き、残渣がないか確認して必要であれば職員が介助を行っている。ゆすぎが出来ない方は、お茶を歯磨き粉代わりにして行っている。総義歯、一部義歯の方は夕食後に歯磨き後に洗浄剤に浸けている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自分からトイレの訴えのない方については、今までの排泄チェック表の記録から、排泄パターンを確認して誘導を行っている。また自力で行かれる方で間隔が長くなっている時には、個別に声掛けを行っている。	職員は利用者の排泄パターンを把握し、定期的にトイレ誘導を行っている。利用者がソワソワしたり、排泄の失敗があれば周囲に気づかれないように支援している。失禁が増えたり、利用者一人一人の状況に応じて、夜間帯や日中のパットの種類変更について職員から意見が出た際にはその都度、協議・検討している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤は個々の状態に応じて、種類の違ったものを服用されており、毎日、排便の時間やリズム、量や形状を観察し記録を行い、下剤の調整を行っている。また、下剤に頼らず排便が出来る様に、水分量の確認や牛乳の提供、体操や散歩を行うなど、便秘予防に取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	曜日にこだわらず、本人様の体調や希望に合わせて、早めに入りたい方やゆっくり入りたい方など、個々に応じて入浴して頂いている。入浴拒否がある方には無理強いをせず、時間を置いて声掛けを行い、それでも拒否がある時は日を改めて入浴をして頂いている。	入浴は毎日準備しており、2日に1回入浴出来るように声掛けを行っている。入浴拒否のある利用者には同姓で対応したり、時間をおいて声かけを行うなど工夫している。寒い時期は浴室を暖房で暖めておくなど環境を整えている。入浴中は利用者と職員でゆっくり会話をを楽しむ時間となっている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその日の体調、希望などの状況に応じて自由に休息して頂いている。日中、適度な活動を促し、生活のリズムが出来て安眠出来る様に支援している。また、天気の良い日には布団干しを行うことで、気持ち良く睡眠が出来る様にしている。		
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している、薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、確実な服用が出来る様に職員間で日付、名前の確認を行い、状況に応じた服薬支援に努めている。症状に変化が見られる場合は看護師に伝え、主治医へ連絡が必要と判断した時は状況を伝えている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの生活歴や得意な事を把握して、洗濯物たたみを手伝って頂いたり、おやつ作りをしたりと役割が持てる場を作り出せる様に努めている。外出、行事等に参加する事で気分転換になる様に支援をしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候が良い日には散歩やドライブに出掛けている。また、法事やお孫様の結婚式に出席する為に、自宅へ帰られたり、ご家族と外食に出かけられたりされている。要望があれば買い物にお連れしたり、希望に添って出掛けられる様に支援をしている。	法人が企画するバスハイクに利用者とその家族が職員と一緒に参加し、雲仙や武雄などへの日帰り旅行を支援している。月に1回程度、季節のお花見や地域の伝統行事、足湯などにドライブを行っている。天候の良い日は近所の神社などへ散歩を行い、日常的に外出を支援している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が難し方に付いては、ご家族よりお金を預かり施設で管理を行っている。ご本人より希望の品の買い物依頼があれば代行して、預かり金より支払っている。都合が合えば、一緒に買い物に行く事もある。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人より依頼があれば、ご家族へ確認して電話を掛けたり、葉書などが来れば手渡して、読むのが難しい方には代読の支援を行っている。電話が掛かれれば取り次ぎを行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は天窗より、採光が入り明るくて開放的な雰囲気を醸し出している。壁には利用者様と職員が一緒に制作した、季節の飾り絵を掲示して、季節感を感じられるようにしている。時間帯や状況に合わせて音楽を流し、落ち着いた雰囲気で過ごされるようにしている。	吹き抜けの天井から光が差し込み、明るく開放感がある。玄関や食堂には季節の装飾や、利用者の作品の折り紙、手作りのカレンダーが飾られている。利用者がゆっくりと過ごせるようにソファが配置されている。西棟と東等の利用者と職員が交流できるよう、一緒にレクリエーションや季節の行事を行っている。	
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	南側のベランダや玄関先にはベンチを設置して、日差しが柔らかい日などには外の空気に触れ易いようにしている。フロアには一人掛け、二人掛け、三人掛けのソファを設置しており、気の合った方向士が、それぞれの場所で思い思いに過ごせるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前に、ご家族に安心して過ごせる様に、使い慣れた布団や家具、馴染みのある小物などをお持ち下さいと伝えて、準備して頂いており、最初から居心地良く過ごせる様に工夫している。	居室の天井は吹き抜けになっている。利用者の入居前に使用していたTVやソファ、タンス、布団等が持込まれている。利用者と家族に置きたい物や場所の希望を聞きながら、居心地良く過ごせるよう配置されている。家族の写真が飾られ、温かみのある空間となっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、廊下、脱衣所、入浴場、トイレには必要に応じて手摺を設置しており、自分で出来る部分を活かして安全に生活が送れる様に工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			<input type="radio"/>	②家族の2／3くらいと
			<input type="radio"/>	③家族の1／3くらいと
			<input type="radio"/>	④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のようにある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
			<input type="radio"/>	③あまり増えていない
			<input type="radio"/>	④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			<input type="radio"/>	②職員の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③職員の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			<input type="radio"/>	②家族等の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③家族等の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は目につき易い所に掲示し、職員全員が共有し実践に繋げている。相談に見えた方や入居を希望される方にも理念について説明を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として町内会に加入し、月末の日曜日には公民館・お宮掃除に職員が交代で参加して、地域の人と交流を行っている。また散歩に出掛ける時には、地域の方と挨拶を交わしている。また地元高校の福祉科の実習生の研修を継続して受け入れている。地元の祭りのおにぎえでは内に入って頂いたり、全国からの襷を繋ぐリレーのRUN 伴では外に出て応援したり、地域の一員として日常的の交流を行っている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩やドライブに出掛けた先で、近隣の方々と一緒になる事もあり、挨拶を交わしたり、介護している所を見られて興味を示されて話し掛けられる事もあり、その場に介助が必要な方があれば、声掛けを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、利用状況、行事報告、内部研修、外部研修、その他、必要事項を報告し委員の方と質疑応答を行っている。提案などについて、サービスの向上に繋げている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議委員の市役所高齢者福祉係の方、包括支援センターの方には運営推進会議の場で交流を図っている。欠席の場合には議事録を持参して、近況報告を行っている。また、市役所の方はキャラバンメイトも担当されており、交流の機会を持っている。生活保護の方については、保護係の担当者とは月1回は顔を合わせており、必要時には確認を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で身体拘束の勉強会や、身体拘束適正化検討委員会での会議内容を伝えて理解を深めている。玄関は施錠せず、玄関にはチャイムが鳴るセンサーを設置し、センサーが鳴れば直ぐに玄関へ確認しに行っている。見守り担当は時間帯で交代し、意識付けを明確にする為に黄色の紐を肩から掛けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	職員会議の場で高齢者虐待について研修を行い、身体の虐待は勿論の事、言葉の虐待においても職員一人ひとりが、しっかりとした自覚を持ち、虐待の言葉があるのを忘れる様な雰囲気になっている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議の場で権利擁護の研修を行い、再確認したり新しい知識を増やしている。玄関には成年後見人制度の冊子を置いて情報提供をしている。利用者やご家族に、当方から説明する事がないが、現在、施設では2名の方に後見人が付かれ、1名の方は身寄りがなく、もう1名はご家族が遠方に居られる状況なので、案件によりそれぞれと連絡を取り合うなど実践で行っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書については、わかり易い説明を心掛けている。料金改定時は別途、書式により改訂前と改訂後が分かり易く記述したものを作成し、利用者、ご家族に説明を行い、了承を得てから署名、捺印を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来館された時には、状況や状態などについて説明を行い、利用者やご家族から意見や要望が聞かれる事はあまりないが、意見や要望が出された時には、直ぐに検討を行い対応している。外部者には運営推進会議を通じて各委員に説明し、意見などを伺っている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日、朝の申し送り時や職員会議時には、意見を聞く機会を設けている。日常でも意見を聞く事があり、直ぐに実行が必要な事案については、その場で職員に伝えたり、不在者には連絡帳で伝えている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との話し易い関係作りの為に、思いを聞く様にして精神的安定を図っている。また、年に2回自己評価を行い、目標を持つ事でケアの向上に繋がるようにしている。希望休や有給を利用し、働きやすい職場の環境作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用時、性別・年齢・宗教など個人的な事は重視せず、既婚者や出産育児中の職員など誰でも安心して働けるように職場の環境や条件の整備に努めている。また社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるように配慮している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権尊重は介護における基本と捉えている。毎月実施している、全体会議の中で人権尊重に対する研修会を開いたり、日々の申し送り中でも職員全員が自らの事として捉え、考える機会を設けている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数や技術に応じて外部研修を選定し参加している。研修内容は出張復命書により、目的・用件、経過・結果、意見・所感について記述し、内容については精査し、指導を行う事もある。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修などで同地区の者が同じテーブルで討議を行う機会もあり、終了後もそれぞれ交流を続けている。キャラバンメイト連絡会議の場や講座の場でも他事業所の方と交流があり、ネットワークづくりが出来て、サービスの質の向上に繋げている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人様とお会いし生活状況を尋ね、不安に思っている事や気持ちを傾聴し、ケアの方法を職員全員で共有し、安心して利用が始められるように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が安心して本人様を預けていただける様に、ご家族の要望や不安等をお尋ねし、また入居後も面会時や電話連絡等で日頃の生活状況を伝え、より良い信頼関係作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の状態や生活状況、ご家族が困っている事等をしっかり聞き、他のサービスの選択肢も視野に入れた上で、今の状況で最適な支援をアドバイスしながら、ご本人やご家族の希望に添うように支援をしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に一緒に生活をしているという意識を持ち、日々の生活の中で楽しみや喜びを共有出来る様に支援をしている。洗濯物たみを一緒にしたり、食事を同じテーブルでする事で、身近に感じて頂く様に支援をしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に見えた際には、状態や状況をお伝えし、必要事項についてはご家族に提案し、意見を伺って方向性を決めている。大きな行事を行う時には、ご家族へ案内し出来るだけ参加して頂き、同じ空間で一緒に過ごして楽しんで頂ける様に努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚、知人、近所の方が面会に見えた際には、テーブル席やご本人の居室に案内してゆっくりと過ごして頂ける様にしている。お帰りの際には、また来て頂ける様に声掛けを行っている。ご主人が他の介護施設に居られる方については、都合が付く時には一緒に行き面会が出来る様に支援を行っている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の相性、性格、身体状況、ご本人の希望などを鑑みて食事席や、ソファ席を決めて、お互いが楽しく、ストレスなく過ごされる様に支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退居されても、お見舞いに行き状態を確認したり、法人の関連施設のことを説明したり、サービス終了後も相談に応じて関係が継続していく事を説明し、安心して頂ける様に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃より、多くのコミュニケーションを図ることで、一人ひとりの思いや意向を汲み取っている。意思疎通が図り難い方については、表情など細かな事でも観察して検討している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、ご本人やご家族から生活歴や今までの暮らし方、生活環境、趣味、サービス利用の有無などを確認して、職員全員で情報を共有している。入所後にご家族との会話で、今まで知り得なかった情報を確認し、必要なものについては基本情報などに追記している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃、一緒に生活をして行く中で、食事、トイレ、レクリエーション、入浴などの場面で、一人ひとりの過ごし方、心身状態、有する力などの把握に努めて、状態に変化が見られた場合は、個人記録に記載し職員全員で情報を共有し対応を行っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は担当制にしており、利用者の状態や思いを把握し、3ヶ月に1回評価を行っている。ご本人、ご家族の意向を踏まえた上で、主治医や看護師の意見を取り入れて介護計画を作成し、毎月全体会議で利用者様一人ひとりの状態を話し合い、プランに反映し状態変化時は、その都度、見直しを行っている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に1日の様子、健康状態、その他、気付いた点を記録し、情報を全スタッフで共有し介護計画の見直しに活かしている。また、申し送りノートを活用しスタッフ全員統一したケアを行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族の意向を汲み取り、個別の対応が出来る様に支援している。ご家族が遠方に居られる方で、入院された場合等では、洗濯物を取りに行き洗濯して病院に届けている。希望される医療機関への通院介助や送迎等にも柔軟に対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前から馴染みのある地域活動を把握し、利用者様が地域住民の一員として、地域で活躍出来る様に努めている。日頃の散歩では、ご近所の方と挨拶を交わして交流をしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診や往診については契約時に、ご本人やご家族から依頼を受けて、主治医に連絡を行い開始している。また、状況や状態に変化が生じ、途中で主治医が変更になる事もある。職員間や医療機関との連携を図りながら、適切な医療を受けられる様に支援している。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日常の関わりの中で得た情報を、看護師や医療連携している訪問看護に伝えるなど、情報交換を密に行い個々の利用者が適切な受診や往診、看護を受けられる様に支援をしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院された際には、速やかに基本情報、アセスメント、薬情、薬、着換え、口腔ケア用品などを病院へ届けている。退院時には経過説明に参加して、施設での注意点などを確認している。入院中は出来るだけ面会に行き、状態や状況の確認を行い、地域連携室とも連携を図っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や終末期のあり方について説明を行い署名を頂き、そのような状況や状態になられた時に再度、ご家族と話し合いを行い方向性を決めている。看取りを希望された場合は、その時点で主治医と契約を交わし、医療連携している訪問看護にもその旨を伝えている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月実施している全体会議の中で、急変や事故発生時の備えを題材として勉強会を行い、実際に起きた場合に適切な対応、行動が出来る様に実践力を身に付けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火・避難訓練を消防吏員の派遣を伴う総合訓練を1回、施設のみで行う部分訓練を1回の年2回訓練を行っている。新規に入社した職員には、早く仕方を習得させる為に、初期消火や通報の役割を持たせている。訓練後には消防署より、消防訓練実施結果について全体の評価、推奨事項や反省点を挙げて頂き、記録して今後活かしている。消火器に慣れていない職員には水消火器を用いて訓練を行っている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に排泄に関する事や、皮膚疾患などによる処置時に於いては、場所や声の大きさに十分にプライバシーに配慮を行い、安心して支援が受けられる様に対応している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との会話や支援をしている中で、希望や思いを確認し自己決定し易いように働き掛けている。意思表示が出来難い方については、表情や声掛けした時の反応を見て希望や思いを確認したり、面会時にご家族から意見を伺う等して、再度、声掛けをして自己決定し易いように働き掛けている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様、一人ひとりが自分のペースで過ごされている。ソファーに座られて他の利用者様とゆっくりと会話されたり、個人でテレビ視聴されたりして過ごされている。話しが出来難い方については、職員が傍に付いて会話などの支援を行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は月1回、出張サービス美容があり、自分から希望される方やご家族から依頼される方、自分から言われない方は、職員が確認してカットを依頼している。衣類は自分で好きな物を選ばれる方や、自分で出来難い方については、職員が付いて、一緒に選ぶ支援を行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様、一人ひとりの好き嫌いを把握し、嫌いな物でも食べ易く工夫したり、代替え品を提供したりして、栄養が不足しない様にしている。各テーブルには職員が付いて、食事介助をしたり、会話したりして楽しく食事を行っている。出来る方には食器洗いや拭きあげを依頼する事もある。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスは同グループの栄養士がいる調理部門より配達されている。水分量の少ない方は本人が好まれる乳酸飲料や補水液を提供したり、朝や、おやつ時に牛乳やコーヒー牛乳を提供して水分量の確保に努めている。食事量は体重の変化やアルブミン値を確認して、調整を行っている。また、個々に状態に応じて食べ易い大ききで提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所で歯磨きを行う、自分で出来る方はして頂き、残渣がないか確認して必要であれば職員が介助を行っている。総義歯、一部義歯の方は夕食後に歯磨き後に洗浄剤に浸けている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自分からトイレの訴えない方については、今までの排泄チェック表の記録から排泄パターンを確認して、午前中は1時間毎、午後は2時間毎など、個別に声掛けを行い誘導を行っている。また自力で行かれる方で、長く間隔が空いている時には、個別に声掛けを行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤は個々の状態に応じて、種類の違ったものを服用されており、毎日、排便の時間やリズム、量や形状を観察し記録を行い、下剤の調整を行っている。また、下剤に頼らず排便が出来る様に、水分量の確認や牛乳の提供、体操や散歩を行うなど、便秘予防に取り組んでいる。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	曜日にこだわらず、本人様の体調や希望に合わせて、早めに入りたい方やゆっくり入りたい方など、個々に応じて入浴して頂いている。入浴拒否がある方には無理強いをせず、時間を置いて声掛けを行い、それでも拒否がある時は日を改めて入浴をして頂いている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその日の体調、希望などの状況に応じて自由に休息して頂いている。日中、適度な活動を促し、生活のリズムが出来て安眠出来る様に支援をしている。また、天気の良い日には布団干しを行うことで、気持ち良く睡眠が出来る様にしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している、薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、確実な服用が出来る様に職員間で日付、名前の確認を行い、状況に応じた服薬支援に努めている。症状に変化が見られる場合は看護師に伝え、主治医へ連絡が必要と判断した時は状況を伝えている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの生活歴や得意な事を把握して、洗濯物たたみを手伝って頂いたり、おやつ作りをしたりと役割が持てる場を作り出せる様に努めている。外出、行事等に参加する事で気分転換になる様に支援をしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候が良い日には散歩やドライブに出掛けている。また、法事やお孫様の結婚式に出席する為に、自宅へ帰られたり、ご家族と外食に出かけられたりされている。要望があれば買い物にお連れしたり、希望に添って出掛けられる様に支援をしている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が難し方に付いては、ご家族よりお金を預かり施設で管理を行っている。ご本人より希望の品の買い物依頼があれば代行して、預かり金より支払っている。都合が合えば、一緒に買い物に行く事もある。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人より依頼があれば、ご家族へ確認して電話を掛けたり、葉書などが来れば手渡して、読むのが難しい方には代読の支援を行っている。電話が掛かれば取り次ぎを行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は天窗より、採光が入り明るくて開放的な雰囲気を醸し出している。壁には利用者様と職員と一緒に制作した、季節の飾り絵を掲示して、季節感を感じられる様にしている。時間帯や状況に合わせて音楽を流し、落ち着いた雰囲気でも過ごされる様にしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	南側のベランダや玄関先にはベンチを設置して、日差しが柔らかい日などには外の空気に触れ易い様になっている。フロアには一人掛け、二人掛け、三人掛けのソファを設置しており、気の合った方向士が、それぞれの場所で思い思いに過ごせる様にしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前に、ご家族に安心して過ごせる様に、使い慣れた布団や家具、馴染みのある小物などをお持ち下さいと伝えて、準備して頂いており、最初から居心地良く過ごせる様に工夫している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、廊下、脱衣所、入浴場、トイレには必要に応じて手摺を設置しており、自分で出来る部分を活かして安全に生活が送れる様に工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		